



## もくじ

---

安全にお使い頂くために.....	1
電話回線をご使用にあたって.....	3
リダイヤル動作と送付レベルについて.....	3
ご注意.....	3
付属品の確認.....	4
通信速度について.....	5
各部の説明.....	6
各機器・電話回線との接続.....	7
Windows Vista へのセットアップ.....	8
Windows Server 2003 へのセットアップ.....	12
Windows XP へのセットアップ.....	19
Windows 2000 へのセットアップ.....	25
Windows Me へのセットアップ.....	31
Windows 98 へのセットアップ.....	36
AT コマンドと S レジスタについて.....	41
リザルトコードについて.....	49
ハードウェア・DTE インタフェース仕様、データフォーマット.....	53
ユーザーサポート.....	55
製品の修理.....	56

## 安全にお使い頂くために

- 本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外的要因によって、通信等の機会を逸したために生じた損害等の純粹経済損失に関しましては、弊社は一切その責任を負いかねます。  
保障は本製品の物損の範囲に限ります。あらかじめご了承ください。
- 本製品を使用できるのは日本国内のみです。海外の規格には準拠しておりません。  
本製品を海外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いません。

本製品を安全にお使い頂くために、以降の内容をお読み頂き、お守り下さい。



**警告**

本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡、あるいは重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

- 本製品は一般のオフィスや家庭用OA機器として設計されております。  
人命に直接関わる医療機器や極めて高い信頼性を要求されるシステム(幹線通信機器や電算機システム等)では使用しないで下さい。
- 落雷の恐れがある場合は、本製品の使用をやめ、電話回線に接続されているケーブルを取り外して下さい。  
もし、電話回線に落雷しますと本製品及び本製品が接続されている機器の破壊、発煙、発火の可能性が  
あります。  
なお、雷等の天災による故障の場合、保障期間内であっても有償修理となりますので、あらかじめご了承ください。
- ISDN回線やビジネスホン、ホームテレホンの回線に本製品を接続しないで下さい。  
特にISDN回線に直接接続した場合、発煙、発火の恐れがあります。
- 本製品から煙が出たり、異臭が発生した場合等、異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。その際は電源を切り、電源アダプターをコンセントから外して煙が出なくなる、もしくは異臭が消えることを確認した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。
- 本製品の内部に水等の液体が混入した場合、すぐに本製品の電源をOFFにし、電源アダプターをコンセントから外した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。
- 濡れた手で電源アダプターを抜き差ししないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。
- 電源アダプターのプラグにドライバ等の金属が触れないようにして下さい。  
火災、感電、故障の原因となります。
- 電源アダプターは必ず付属のものをご使用下さい。他のものは絶対に使用しないで下さい。  
火災、故障の原因となります。
- 電源アダプターのプラグをコンセントへ差し込む際は必ず奥まできちんと差し込んで下さい。  
中途半端に差し込むとショートや発火の原因となります。
- 電源アダプターを使用する際にテーブルタップや分岐コンセントを使用して、たこ足配線をする  
ことはお止め下さい。火災、感電の原因となります。
- 電源アダプターのコードを傷つけたり、無理な力を加えたり、重いものを乗せたりする事はお止  
め下さい。火災、感電、故障の原因となります。

- 電源アダプターのプラグとコンセントの間のほこりは定期的(約半年に1回程度)に取り除いて下さい。そのまま放置すると火災の原因となります。
- 電源アダプターを抜き差しするときは必ずプラグを持って行って下さい。電源アダプターのコードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電の原因となります。
- AC100Vの家庭用電源以外では使用しないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。
- 誤って本製品を落下させたり、強い衝撃を与えてしまった場合、本製品の電源アダプターをコンセントから外した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。そのまま使用すると火災、故障の原因となります。
- 本製品を開けて内部の部品に触れないで下さい。高電圧のかかっている箇所があり、火災、感電、故障の原因となります。また、故障した場合、保証期間内であっても保証を受けられなくなります。
- 本製品やパソコンの近くに花瓶や植木鉢、コップ、化粧品、薬品等の液体が入った容器、または小さな金属等を置かないで下さい。これらの異物が本製品の内部に混入した場合、火災、感電、故障の原因となります。



**注意**

本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び、物品損害の発生が想定される内容を示します。

- 本製品を不安定な場所へ設置しないで下さい。  
また、本製品の上にものを置かないで下さい。バランスが崩れて倒れたり、落下して怪我や本製品の故障の原因となります。
- 長時間無人で使用する場合は、必ず定期的に保守/点検を行って下さい。
- 本製品の汚れのお手入れは、柔らかい布で軽く拭き取って下さい。ベンジンやシンナー等の薬品を使用すると、人体に有害な気体が発生したり、本製品の変形や変色の原因となることがあります。

## 電話回線をご利用頂く際の注意事項

---

- NTTとキャッチホンを契約されている電話回線でのご使用は避けて下さい。  
本製品の使用中に他の人から電話がかかってくると、通信が中断されてしまいます。
- 電話回線の差込口がモジュージャックでない場合、NTTに変更工事を依頼して下さい。
- 本製品はNTTの電話回線と電氣的条件が異なる回線（ホームテレホン等）では使用できません。  
PBX（構内回線）へ接続する場合は、PBXの製造メーカーや保守業者へご相談下さい。  
（NTTの電話回線と電氣的条件が同じであるか確認して下さい。）
- 本製品は（財）電気通信端末機器審査協会（JATE）の認証を受けております。  
本製品に貼ってある認証シールをはがさないで下さい。

## リダイヤル動作と送出レベルについて

---

- 自動ダイヤルの際のリダイヤル動作（相手が通信中、あるいは無応答のとき）については、電気通信事業法により「3分間に3回未満」となっています。
- 送出レベルは、工場出荷時  $-15\text{dBm}$ 以下に設定しています。送出レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは禁じられています。送出レベルの変更を行う際は、必ず工事担当者の方に依頼して下さい。（変更方法については、弊社へお問い合わせ下さい。）

## ご注意

---

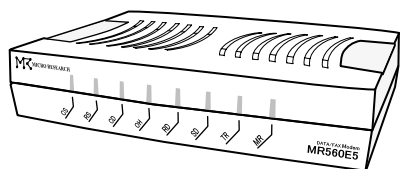
- 長時間無人で使用する際は、正しく動作していることを必ず定期的に確認して下さい。
- 本製品に同梱されている説明書（本紙、クイックスタートガイド、CD-ROM収録のユーザーズマニュアル）の瑕疵（誤記等）によって発生した障害、損害についての保証の範囲は、本製品の修理、交換に限ります。
- 本製品の仕様や外観、及び同梱されている説明書については、改良のため予告無しに変更することがあります。

## 付属品の確認

---

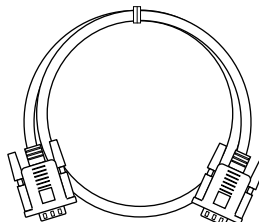
以下の品目が揃っているか確認して下さい。

MR560E5 本体

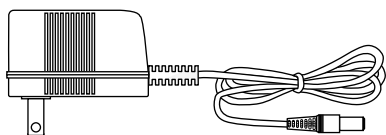


※MR560E5本体裏面に貼られているシールに記載されている「製造番号」を、保証書へご記入下さい。

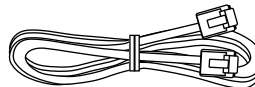
シリアル(RS232C)ケーブル



専用電源アダプター



モジュラーケーブル



Windows用ドライバ&マニュアルCD-ROM     クイックスタートガイド(別紙)

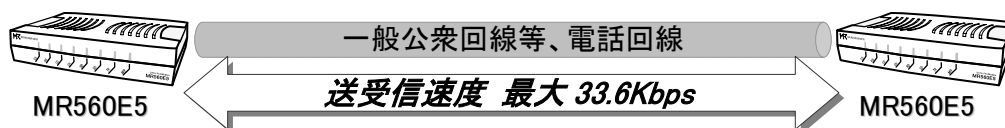
保証書     はじめにお読みください(別紙)

## 通信速度について

---

- V.90(受信:最大56Kbps / 送信:最大33.6Kbps)で接続するためには、ホスト側(プロバイダ等)がV.90に対応している必要があります。

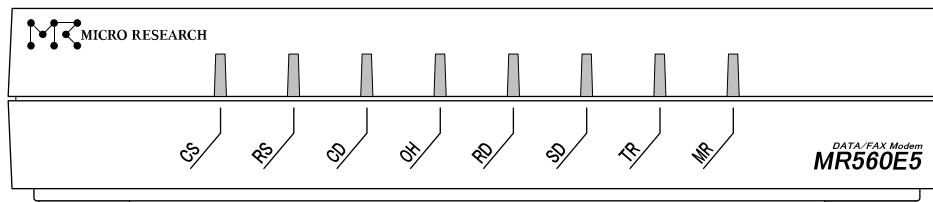
- 本製品同士や他社製V.90対応モデムと接続を行う場合、V.34(最大33.6Kbps)接続となります。



- PBX(構内回線)へ接続した場合、V.90接続はできません。V.34接続となります。
- 回線状況や構内交換機、宅内配線等により、接続速度(通信中含む)が低下する場合があります。
- より安定した通信を行うために、モジュラーケーブルの配線を行う際は、下記を留意して下さい。
  - ・モジュラーケーブルはできるだけ短いものを使用して下さい。
  - ・テレビやラジオ、電源コンセント、電源アダプター等、ノイズを発生しやすい機器の近くを避けて下さい。
  - ・電話回線の分配機や切替機、延長コネクタを使用しないで下さい。

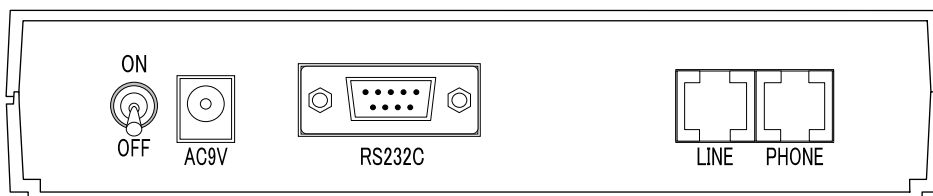
## 各部の説明

### ■前面(モニタランプ・LED)



- ・CS : CTS信号(モデム→端末)がONのときに点灯します。
- ・RS : RTS信号(モデム←端末)がONのときに点灯します。
- ・CD : 相手からキャリア信号を検出したときに点灯します。
- ・OH : 電話回線を接続(オフフック)したときに点灯します。
- ・RD : 端末へデータを送信しているときに点灯します。
- ・SD : 端末がデータを送信しているときに点灯します。
- ・TR : 端末がデータ送受信可能なときに点灯します。
- ・MR : 電源がONのときに点灯します。

### ■背面(コネクタ類)

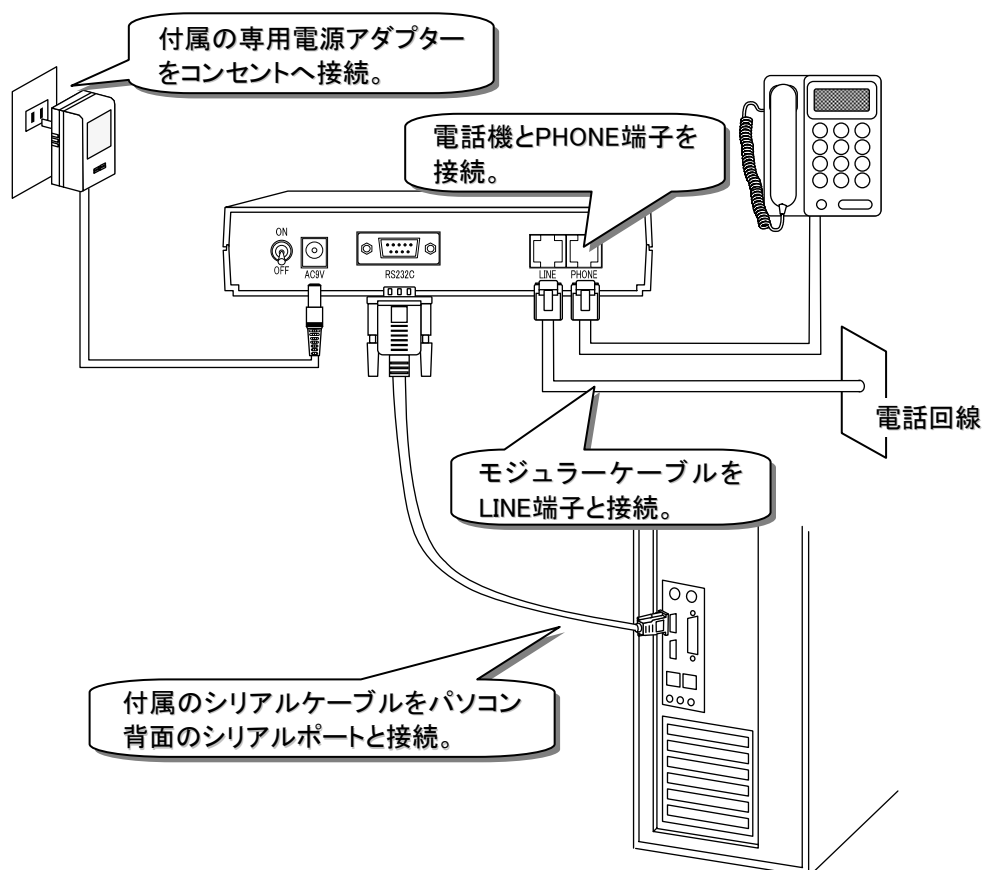


- ・ON/OFF : 電源をON/OFFするスイッチです。
- ・AC9V : 付属の専用電源アダプターを接続します。
- ・RS232C : 付属のシリアル(RS232C)ケーブルを接続します。
- ・LINE : 電話回線と接続します。
- ・PHONE : 電話機を接続する場合、この端子に接続します。

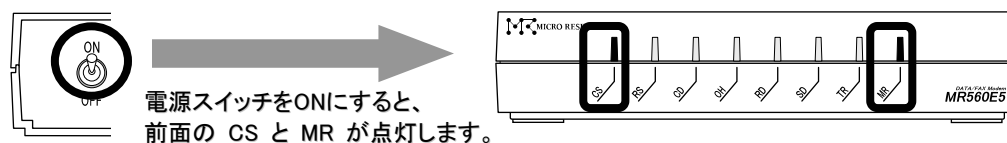


## 各機器・電話回線との接続

- ①パソコンの電源がOFFになっていることを確認した後、下記のように本製品と各機器、電話回線を接続して下さい。



- ②接続が完了した後、本製品背面の電源スイッチをONにして下さい。



- ③本製品前面のLEDが上記のように点灯していることを確認した後、パソコンの電源をONにして下さい。

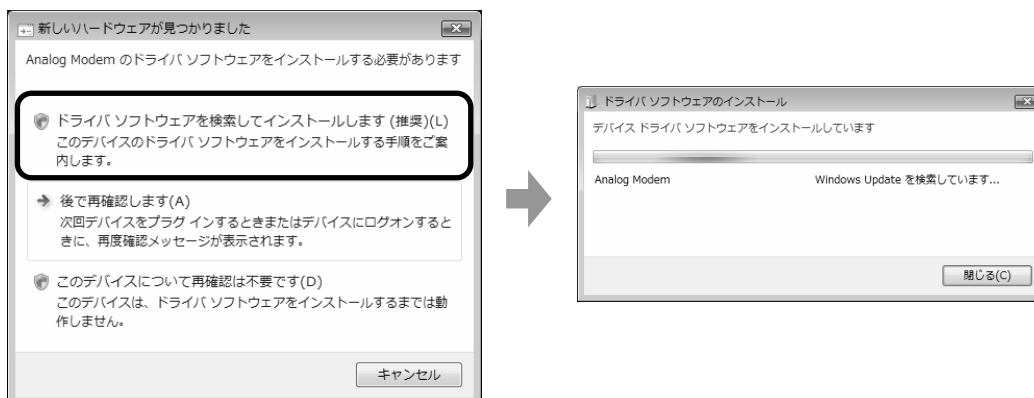
Windows起動後、本製品が自動的に認識されますので、付属の「Windows用ドライバ&マニュアルCD-ROM」を使用し、セットアップを行って下さい。

## Windows Vista へのセットアップ

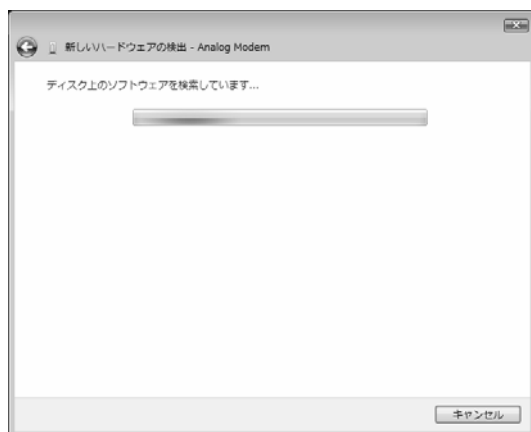
### ●モデムのセットアップ手順

Windows Vistaへモデムをセットアップする手順について説明します。

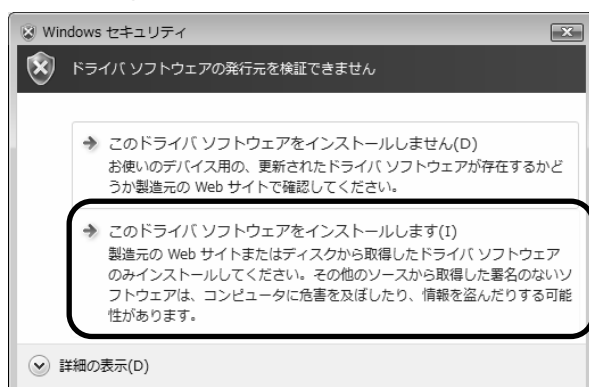
- ①「ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)」をクリックして下さい。  
「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。



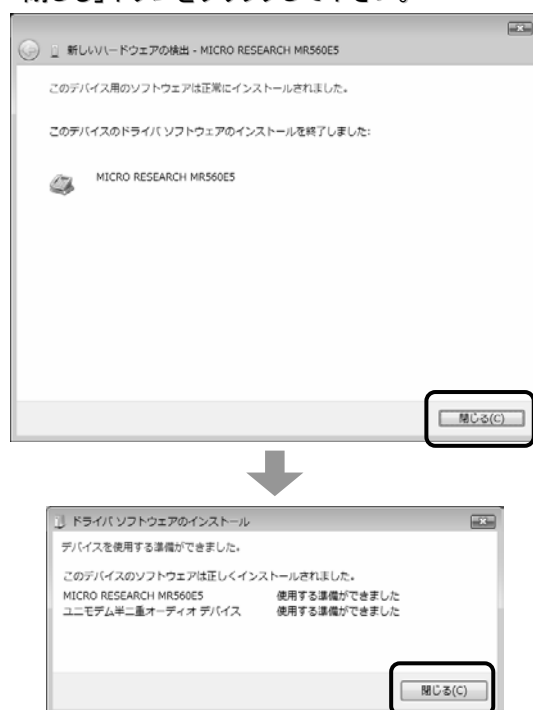
- ②下記の画面が表示されましたら、付属の「Windows用ドライバ&マニュアルCD-ROM」をパソコンのCD-ROMドライブにセットして下さい。(自動的にドライバの検索が開始されます。)



- ③下記の警告画面が表示されましたら、「このドライバソフトウェアをインストールします」をクリックして下さい。



- ④下記の画面が表示されましたら、セットアップは完了です。「閉じる」ボタンをクリックして下さい。

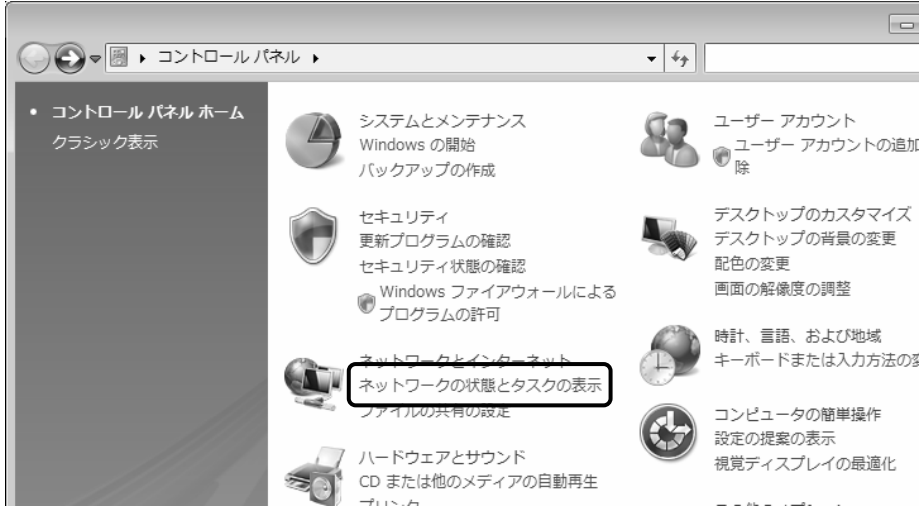


以上で Windows Vista へのセットアップは完了です。

## ●ダイヤルアップネットワークのセットアップ手順

Windows Vista でダイヤルアップネットワークをセットアップする手順について説明します。

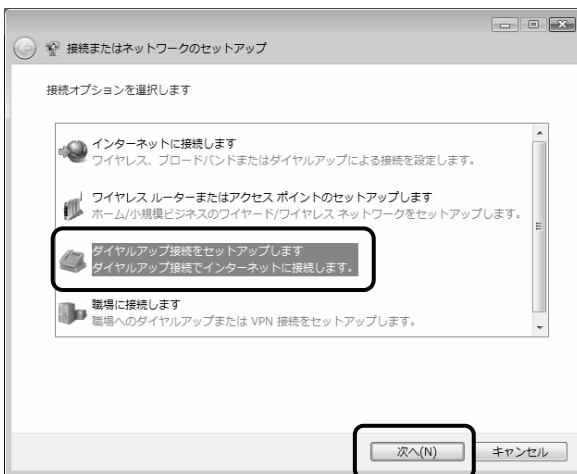
- ①「スタートメニュー」から「コントロールパネル」を開いて下さい。
- ②「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックして下さい。



- ③「接続またはネットワークのセットアップ」をクリックして下さい。



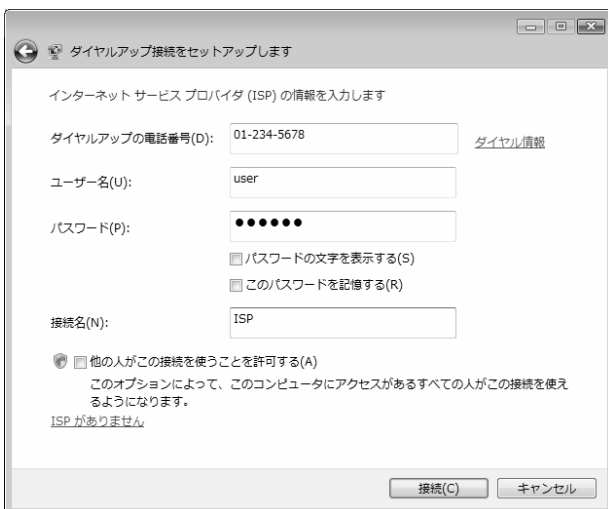
- ④「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択して「次へ」をクリックして下さい。



- ⑤パソコンにモデムが複数セットアップされている場合、下記の画面が表示されます。  
「MICRO RESEARCH MR560E5」をクリックして下さい。  
(モデムが複数セットアップされていない場合は、下記の画面が表示されずに手順⑥の画面に進みます。)



- ⑥下記の画面が表示されますので、以下を入力して下さい。



- ダイヤルアップの電話番号  
→アクセスポイント(接続先)の電話番号を入力して下さい。
- ユーザー名、パスワード  
→接続先のアカウント情報を入力して下さい。
- 接続先名  
→ISP名等、接続先が判別できる名称を入力して下さい。

上記設定を行った後、「接続」ボタンをクリックするとダイヤルアップが開始されます。

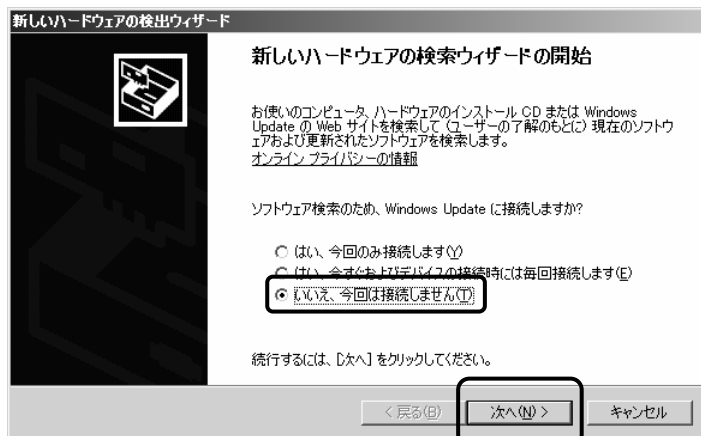
以上でダイヤルアップネットワークのセットアップは完了です。

## Windows Server 2003 へのセットアップ

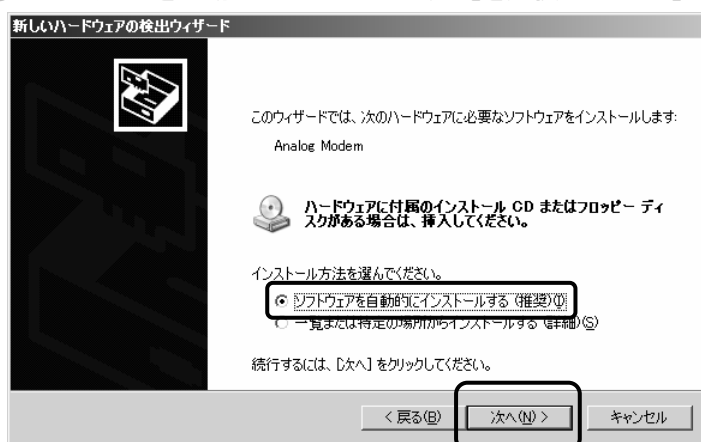
### ●モデムのセットアップ手順

Windows Server 2003へモデムをセットアップする手順について説明します。

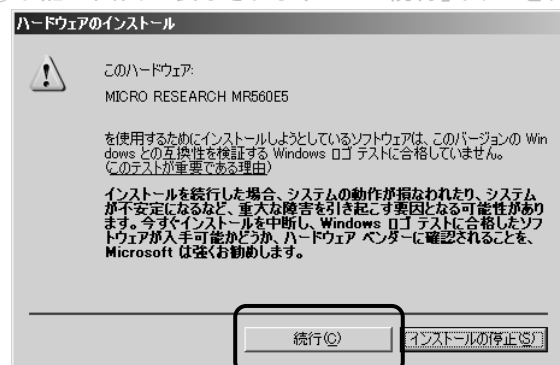
- ①「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されますので、「いいえ、今回は接続しません」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



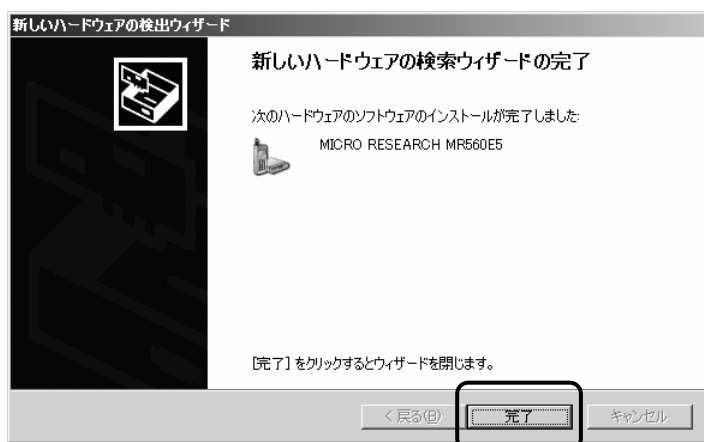
- ②付属の「Windows 用ドライバ&マニュアル CD-ROM」をパソコンの CD-ROM ドライブにセットして下さい。
- ③「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ④下記の画面が表示されますので「続行」ボタンをクリックして下さい。



- ⑤下記の画面が表示されましたら、セットアップは完了です。  
「完了」ボタンをクリックして下さい。



以上で Windows Server 2003 へのセットアップは完了です。

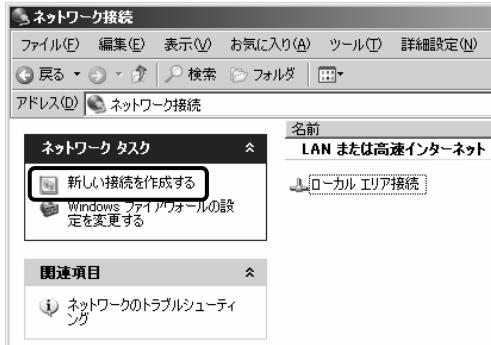
## ●ダイヤルアップネットワークのセットアップ手順

Windows Server 2003 でダイヤルアップネットワークをセットアップする手順について説明します。

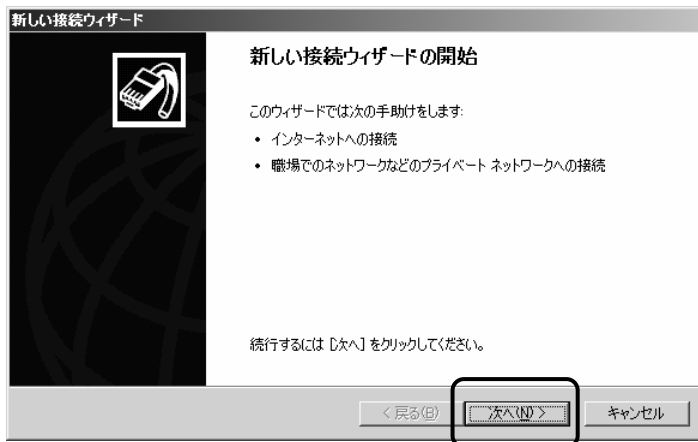
- ①「スタートメニュー」→「設定」→「コントロールパネル」の順番にクリックして下さい。
- ②「ネットワークとインターネット接続」をクリックして下さい。



- ③「新しい接続を作成する」をクリックして下さい。



- ④下記の画面が表示されますので「次へ」ボタンをクリックして下さい。





⑤「インターネットに接続する」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

ネットワーク接続の種類  
オプションを選んでください。

- インターネットに接続する (I)**  
インターネットに接続し、Web をブラウズしたり電子メールを読んだりできます。
- 職場のネットワークへ接続する (O)**  
職場のネットワークにダイヤルアップや VPN を使用して接続し、自宅や別の場所から仕事ができるようになります。
- 詳細接続をセットアップする (E)**  
シリアル、パラレル、または赤外線ポートを使用して別のコンピュータに直接接続します。またこのコンピュータにほかのコンピュータから接続できるようにします。

< 戻る (B)   **次へ (N) >**   キャンセル

⑥「ダイヤルアップ モデムを使用して接続する」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

インターネット接続  
インターネットにどう接続しますか？

- ダイヤルアップ モデムを使用して接続する (D)**  
モデムや通常の電話線、または統合デジタル サービス通信網 (ISDN) 電話線を使用して接続します。
- ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する (U)**  
これは高速ブロード接続で、DSL またはケーブル モデムを使用します。ISP によっては、この種類の接続を PPPoE として呼んでいます。
- 常にアクティブな広帯域接続を使用して接続する (A)**  
これは高速ブロード接続で、ケーブル モデム、DSL または LAN 接続のいずれかを使用します。この接続は常にアクティブで、サイン インを必要としません。

< 戻る (B)   **次へ (N) >**   キャンセル

⑦ISP名等、接続先が判別できる名称を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

接続名  
インターネット接続を提供するサービスの名前は何か？

次のボックスに ISP の名前を入力してください。

ISP 名 (A)

ISP

ここに入力された名前は作成している接続の名前になります。

< 戻る (B)   **次へ (N) >**   キャンセル

⑧アクセスポイント(接続先)の電話番号を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

**ダイヤルする電話番号**  
ISP の電話番号を指定してください。

下に電話番号を入力してください。

電話番号(P):  
[01-234-5678]

識別番号または市外局番が必要な場合があります。よくわからないときは、電話でその電話番号にダイヤルしてください。モジムの音が聞こえる場合はダイヤルしたその番号が正解です。

< 戻る(B) > **次へ(N) >** キャンセル

⑨「ダイヤルアップ接続を利用できるユーザー」を指定して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

**接続の利用範囲**  
新しい接続をすべてのユーザー用、または自分専用指定できます。

現在ログインしているユーザー個人だけが利用できるように作成された接続は、そのユーザーのユーザーアカウントに保存され、そのユーザーがログインしたときだけ利用できます。

この接続を利用できるユーザーを指定します:

すべてのユーザー(A)  
 自分のみ(M)

< 戻る(B) > **次へ(N) >** キャンセル

⑩「ユーザー名」、「パスワード」、「パスワードの確認入力」(接続先のアカウント情報)を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

**インターネット アカウント情報**  
インターネット アカウントにサインインするにはアカウント名とパスワードが必要です。

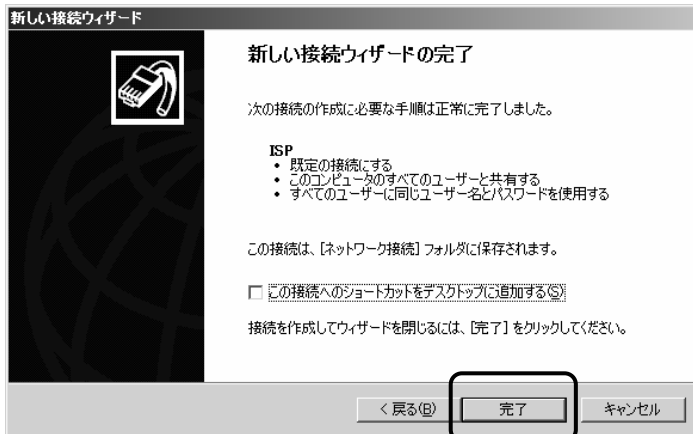
ISP アカウント名およびパスワードを入力し、この情報を書き留めてから安全な場所に保管してください。(既存のアカウント名またはパスワードを忘れてしまった場合は、ISP に問い合わせてください。)

ユーザー名(U): [user]  
パスワード(P): [\*\*\*\*\*]  
パスワードの確認入力(C): [\*\*\*\*\*]

このコンピュータからインターネットに接続するときは、たいていこのアカウント名およびパスワードを使用する(S)  
 この接続を既定のインターネット接続とする(M)

< 戻る(B) > **次へ(N) >** キャンセル

⑪下記の画面が表示されましたら、「完了」ボタンをクリックして下さい。



⑫下記の画面が表示されますので、「プロパティ」ボタンをクリックして下さい。



⑬「接続の方法」欄に「MICRO RESEARCH MR560E5」が表示されている事を確認して下さい。確認しましたら、「OK」ボタンをクリックして下さい。



パソコンに複数のモデムがセットアップされている場合、「接続の方法」欄に複数のモデム名が表示されます。その場合、他のモデムのチェックボックスのチェックを外して、「MICRO RESEARCH MR560E5」にのみチェックを入れて下さい。

⑭「ダイヤル」ボタンをクリックするとダイヤルアップが開始されます。



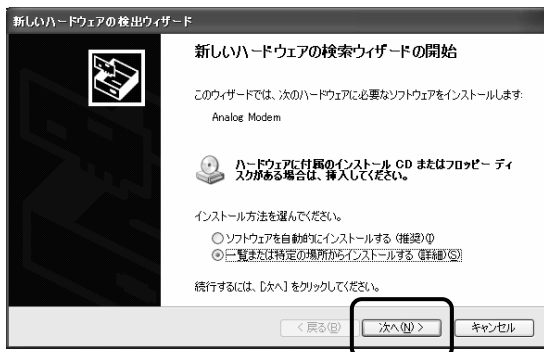
以上でダイヤルアップネットワークのセットアップは完了です。

## Windows XP へのセットアップ

### ●モデムのセットアップ手順

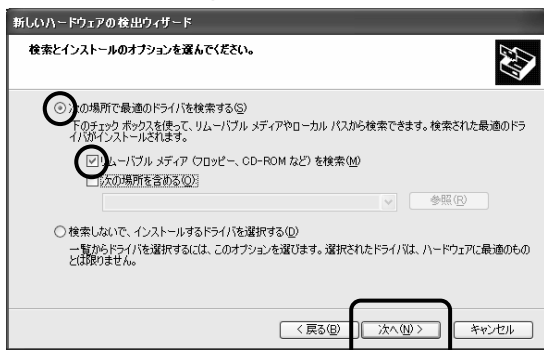
Windows XPへモデムをセットアップする手順について説明します。

- ①「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されますので「次へ」ボタンをクリックして下さい。



※左記の画面の前に、Windows Update への接続確認画面が表示された場合は「いいえ、今回は接続しません」を選択して、「次へ」ボタンをクリックして下さい。

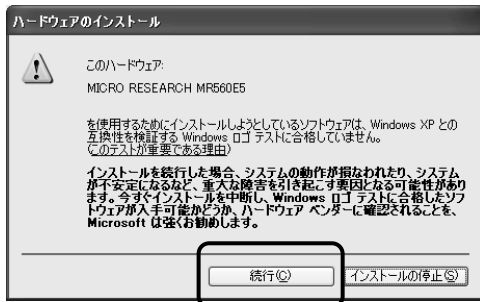
- ②付属の「Windows 用ドライバ&マニュアル CD-ROM」をパソコンの CD-ROM ドライブにセットして下さい。
- ③「次の場所で最適なドライバを検索する」を選択し、「リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROM など)を検索」にチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックして下さい。



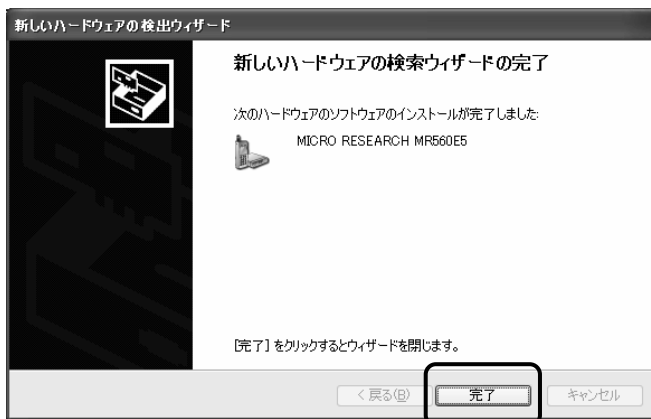
- ③下記の画面が表示されますので、検索が完了するまでそのままお待ち下さい。



④下記の警告画面が表示されましたら、「続行」ボタンをクリックして下さい。



⑤下記の画面が表示されましたら、セットアップは完了です。「完了」ボタンをクリックして下さい。



以上で Windows XP へのセットアップは完了です。

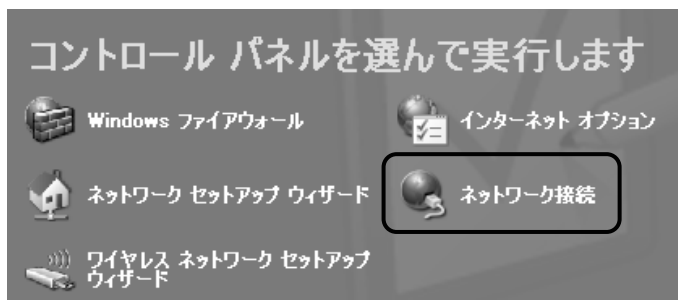
## ●ダイヤルアップネットワークのセットアップ手順

Windows XP でダイヤルアップネットワークをセットアップする手順について説明します。

- ①「スタートメニュー」から「コントロールパネル」を開いて下さい。
- ②「ネットワークとインターネット接続」をクリックして下さい。



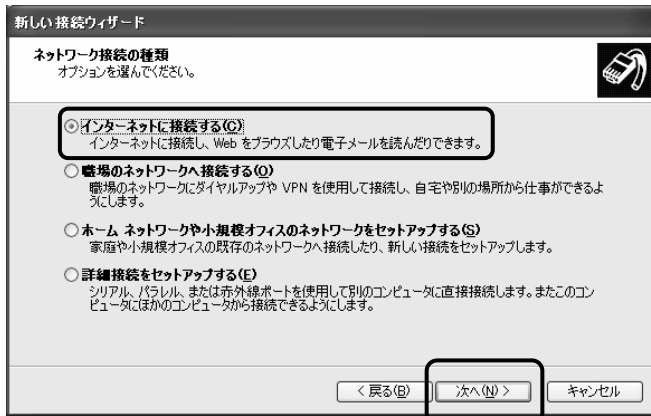
- ③「ネットワーク接続」をクリックして下さい。



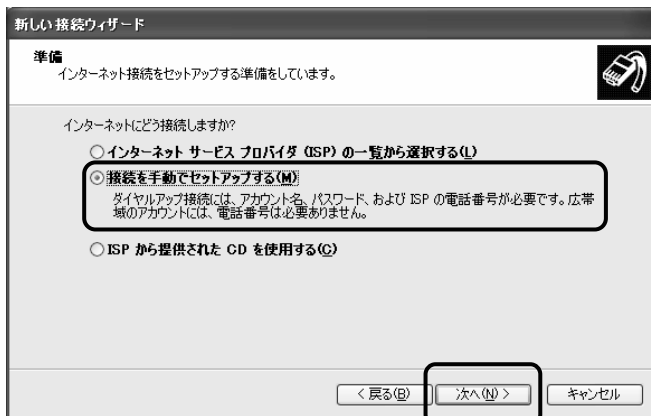
- ④「新しい接続を作成する」をクリックして下さい。



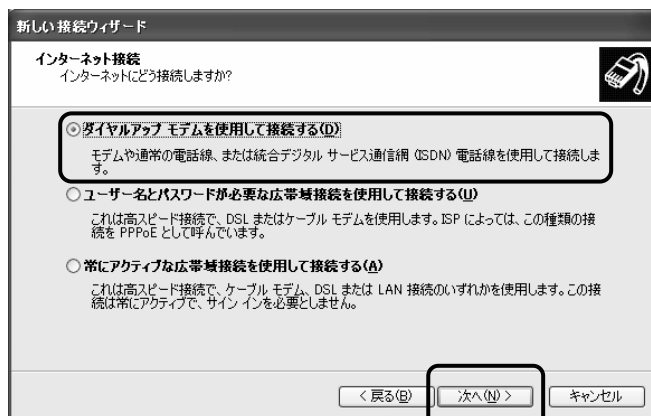
- ⑤「新しい接続ウィザード」画面が開きますので「インターネットに接続する」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ⑥「接続を手動でセットアップする」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ⑦「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

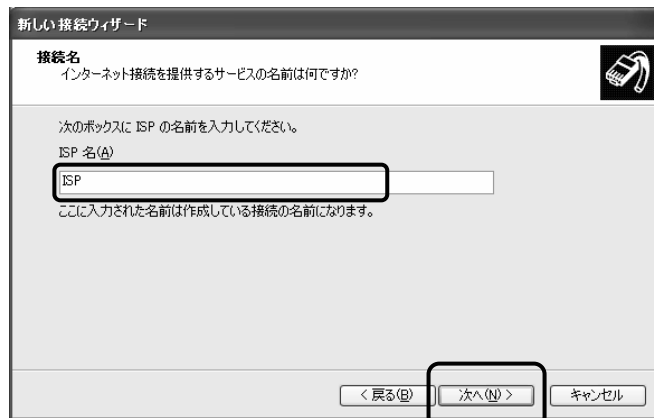




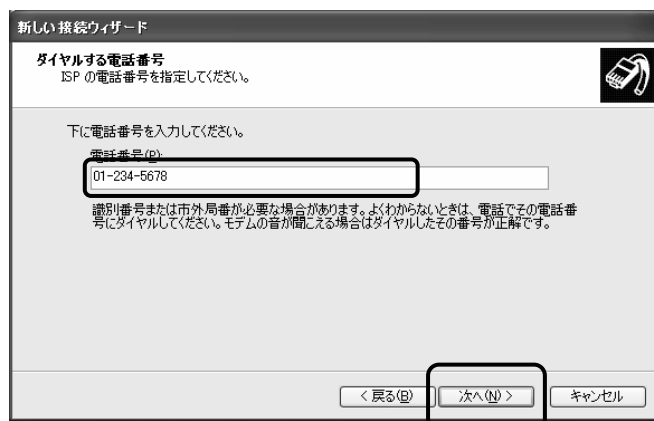
- ⑧「MICRO RESEARCH MR560E5」を選択して(左側チェックボックスにチェックを入れて)「次へ」ボタンをクリックして下さい。  
(その他のデバイスがある場合は、それらのチェックを外して下さい。)



- ⑨ISP名等、接続先が判別できる名称を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ⑩アクセスポイント(接続先)の電話番号を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ⑪「ユーザー名」、「パスワード」、「パスワードの確認入力」(接続先のアカウント情報)を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

インターネット アカウント情報  
インターネット アカウントにサインインするにはアカウント名とパスワードが必要です。

ISP アカウント名およびパスワードを入力し、この情報を書き留めてから安全な場所に保管してください。(既存のアカウント名またはパスワードを忘れてしまった場合は、ISP に問い合わせてください。)

ユーザー名(U): user  
パスワード(P): \*\*\*\*\*  
パスワードの確認入力(C): \*\*\*\*\*

この接続を既定のインターネット接続とする(M)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- ⑫下記の画面が表示されましたら、「完了」ボタンをクリックして下さい。

新しい接続ウィザード

新しい接続ウィザードの完了

次の接続の作成に必要な手順は正常に完了しました。

ISP

- 既定の接続にする
- このコンピュータのすべてのユーザーと共有する
- すべての人に同じユーザー名とパスワードを使用する

この接続は、[ネットワーク接続]フォルダに保存されます。

この接続へのショートカットをデスクトップに追加する(S)

接続を作成してウィザードを閉じるには、[完了]をクリックしてください。

< 戻る(B) 完了 キャンセル

- ⑬下記の画面が表示されます。  
「ダイヤル」ボタンをクリックするとダイヤルアップが開始されます。

ISP へ接続

ユーザー名(U): user  
パスワード(P): [パスワードを変更するには、ここをクリックします]

次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する(S)

このユーザーのみ(N)  
 このコンピュータを使うすべてのユーザー(A)

ダイヤル(D): 01-234-5678

ダイヤル(D) キャンセル プロパティ(O) ヘルプ(H)

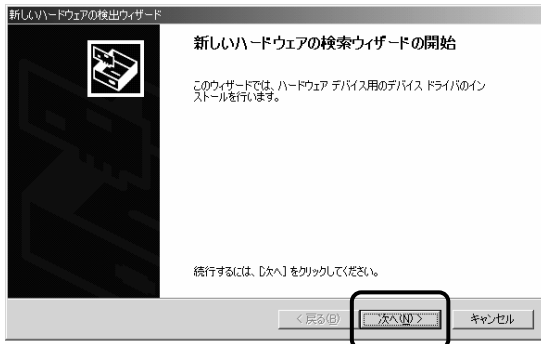
以上でダイヤルアップネットワークのセットアップは完了です。

# Windows 2000 へのセットアップ

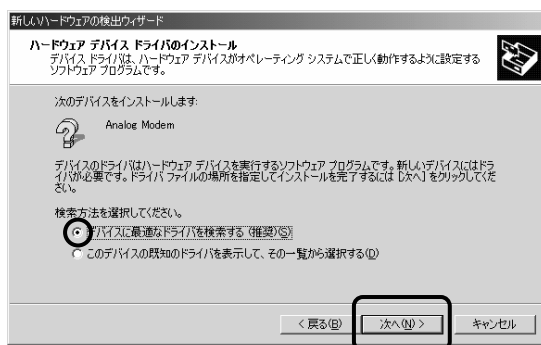
## ●モデムのセットアップ手順

Windows 2000へモデムをセットアップする手順について説明します。

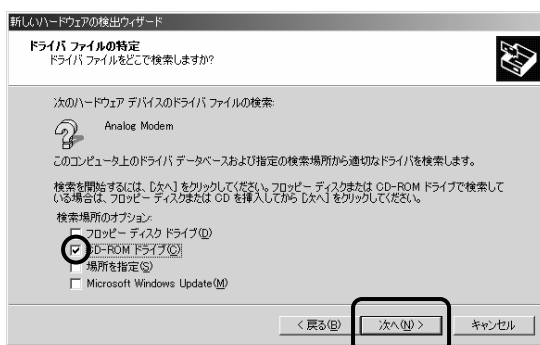
- ①「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックして下さい。



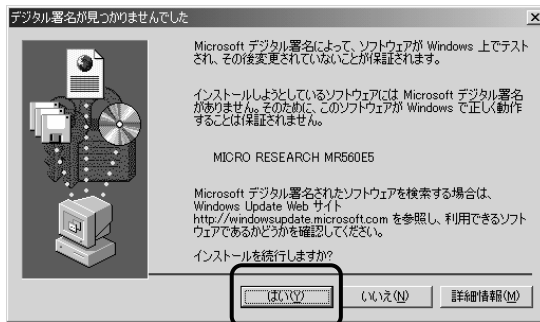
- ②付属の「Windows用ドライバ& マニュアルCD-ROM」をパソコンのCD-ROMドライブにセットして下さい。
- ③「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



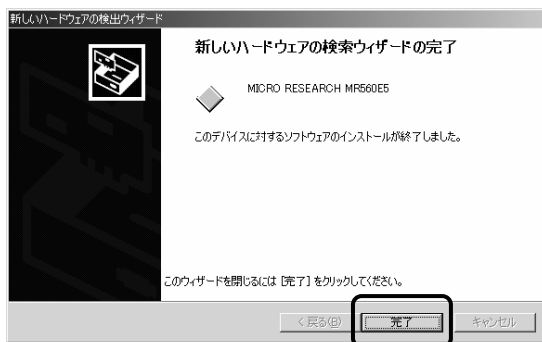
- ④「検索場所のオプション」欄で「CD-ROMドライブ」にチェックを入れて「次へ」ボタンをクリックして下さい。



⑤「デジタル署名が...」画面が表示されましたら「はい」ボタンをクリックして下さい。



⑥下記の画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックして下さい。



以上で Windows 2000 へのセットアップは完了です。

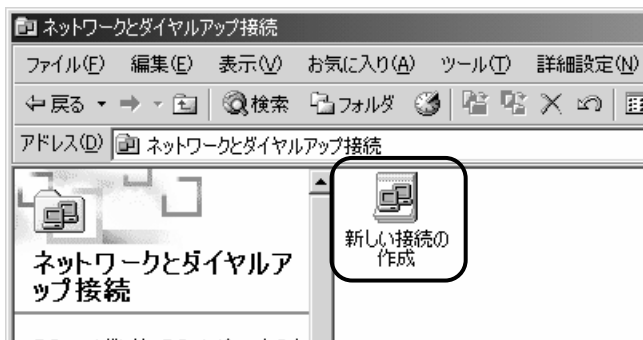
## ●ダイヤルアップネットワークのセットアップ手順

Windows 2000 でダイヤルアップネットワークをセットアップする手順について説明します。

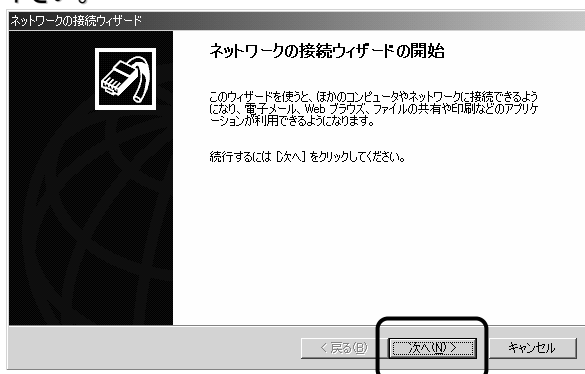
- ①「スタートメニュー」→「設定」から「コントロールパネル」を開いて下さい。
- ②「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックして下さい。



- ③「新しい接続の作成」をダブルクリックして下さい。



- ④「ネットワークの接続ウィザードの開始」画面が表示されますので「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ⑤「プライベート ネットワークにダイヤルアップ接続する」を選択して、「次へ」ボタンをクリックして下さい。

ネットワークの接続ウィザード

**ネットワーク接続の種類**  
ネットワーク構成や必要性に応じた種類のネットワーク接続を作成できます。

- プライベート ネットワークにダイヤルアップ接続する(P)**  
電話回線 (モデムまたは ISDN) を使って接続します。
- インターネットにダイヤルアップ接続する(D)**  
電話回線 (モデムまたは ISDN) を使ってインターネットに接続します。
- インターネット経由でプライベート ネットワークに接続する(V)**  
仮想プライベート ネットワーク (VPN) 接続を作成するか、またはインターネットをトンネルして接続します。
- 着信接続を受け付ける(A)**  
電話回線、インターネット、またはケーブル接続を使ってほかのコンピュータからこのコンピュータに接続できるようにします。
- ほかのコンピュータに直接接続する(C)**  
シリアル、パラレルまたは赤外線ポートを使って接続します。

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

- ⑥アクセスポイント(接続先)の電話番号を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。  
※「ダイヤル情報を使う」にチェックを入れると「市外局番」が入力できます。

ネットワークの接続ウィザード

**ダイヤルする電話番号**  
接続先のコンピュータまたはネットワークの電話番号を指定してください。

接続する先のコンピュータまたはネットワークの電話番号を入力してください。コンピュータにほかの場所からのダイヤル方法を自動的に判断させるには、[ダイヤル情報を使う] チェック ボックスをオンにします。

市外局番(A):      電話番号(P):  
01      234-5678

国番号/地域番号(C):  
日本 (81)

**ダイヤル情報を使う(U)**

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

- ⑦「ダイヤルアップ接続を利用できるユーザー」を指定して「次へ」ボタンをクリックして下さい。

ネットワークの接続ウィザード

**接続の利用範囲**  
新しい接続をすべてのユーザー用、または自分専用指定できます。

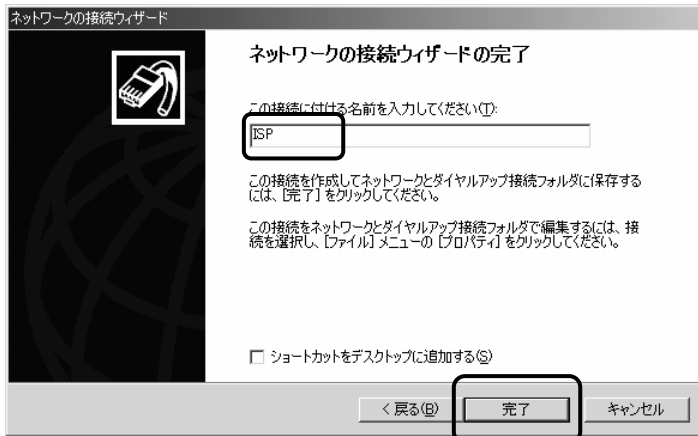
この接続をすべてのユーザー用または自分専用指定できます。自分専用のプロフィールに格納した接続は、あなたがログオンしたときだけ利用できます。

この接続を利用できるユーザーを指定してください

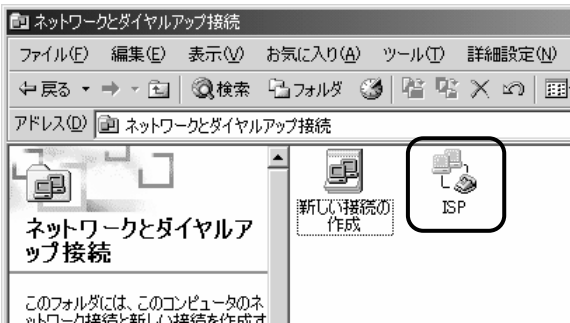
- すべてのユーザー(F)**
- 自分のみ(Q)**

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

⑧ISP名等、接続先が判別できる名称を入力して「完了」ボタンをクリックして下さい。



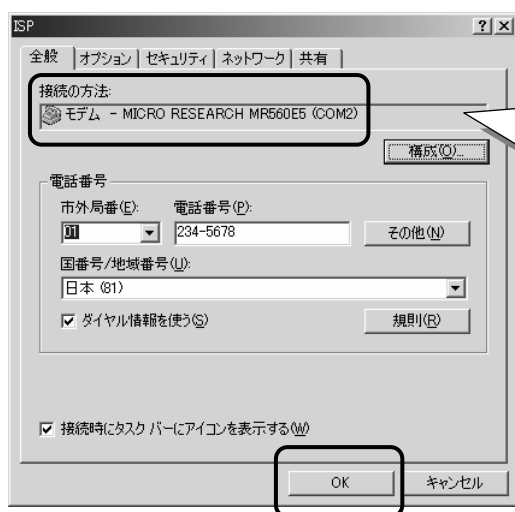
⑨「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウ内に作成したダイヤルアップネットワークアイコンが表示されますのでダブルクリックして下さい。



⑩下記の画面が表示されますので、「プロパティ」ボタンをクリックして下さい。



- ⑪「接続の方法」欄に「MICRO RESEARCH MR560E5」が表示されている事を確認して下さい。  
確認したら、「OK」ボタンをクリックして下さい。



パソコンに複数のモデムがセットアップされている場合、「接続の方法」欄に複数のモデム名が表示されます。

その場合、他のモデムのチェックボックスのチェックを外して、「MICRO RESEARCH MR560E5」にのみチェックを入れて下さい。

- ⑫「ユーザー名」、「パスワード」(接続先のアカウント情報)を入力して下さい。  
「ダイヤル」ボタンをクリックするとダイヤルアップが開始されます。



以上でダイヤルアップネットワークのセットアップは完了です。



## Windows Me へのセットアップ

### ●モデムのセットアップ手順

Windows Meへモデムをセットアップする手順について説明します。

- ①「新しいハードウェアの追加ウィザードの開始」画面が表示されますので、「ドライバの場所を指定する」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ②付属の「Windows 用ドライバ&マニュアル CD-ROM」をパソコンの CD-ROM ドライブにセットして下さい。
- ③「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択して、「リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROMなど)」にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ④「更新したソフトウェア MICRO RESEARCH MR560E5」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



⑤下記の画面が表示されますので「次へ」ボタンをクリックして下さい。



⑥下記の画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックして下さい。

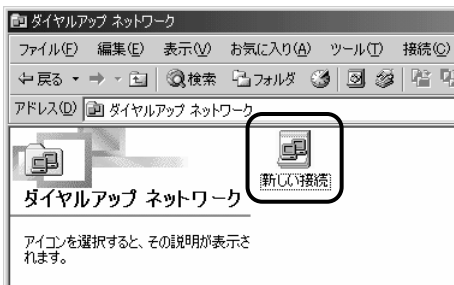


以上でWindows Meへのセットアップは完了です。

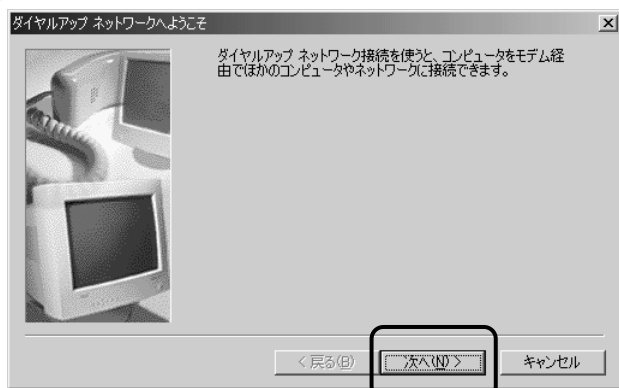
## ●ダイヤルアップネットワークのセットアップ手順

Windows Me でダイヤルアップネットワークをセットアップする手順について説明します。

- ①「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ダイヤルアップネットワーク」の順番にダブルクリックして下さい。
- ②「新しい接続」をダブルクリックして下さい。



- ③下記の画面が表示されますので「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ④「接続名」にISP名等、接続先が判別できる名称を入力して下さい。「モデムの選択」欄で「MICRO RESEARCH MR560E5」が選択されていることを確認して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



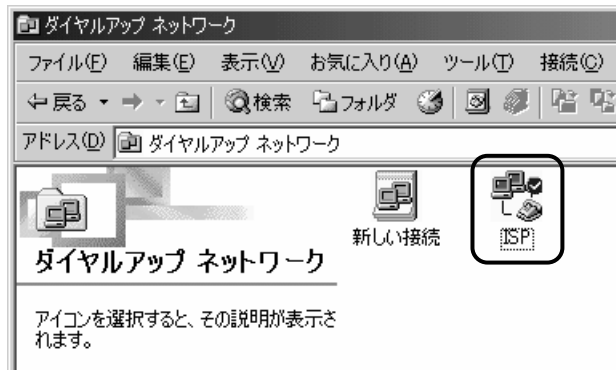
⑤アクセスポイント(接続先)の電話番号を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



⑥下記の画面が表示されましたら、「完了」ボタンをクリックして下さい。



⑦「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウ内に作成したダイヤルアップネットワークアイコンが表示されますのでダブルクリックして下さい。



⑧下記の画面が表示されますので、「ユーザー名」、「パスワード」(接続先のアカウント情報)を入力して下さい。

「接続」ボタンをクリックするとダイヤルアップが開始されます。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "接続" (Connect). At the top, there is a dropdown menu for "ISP" with "ISP" selected. Below that are two text input fields: "ユーザー名(U):" (Username) containing "user" and "パスワード(P):" (Password) containing "\*\*\*\*\*". There are two checkboxes: "パスワードの保存(S)" (Save password) and "自動的に接続する(A)" (Connect automatically), both of which are unchecked. Below these are two more text input fields: "電話番号(N):" (Phone number) containing "01 2345678" and "発信元(E):" (Origin) with a dropdown menu showing "新しい場所" (New location) and a button labeled "ダイヤルのプロパティ(D)" (Dialing properties). At the bottom, there are three buttons: "接続" (Connect), "プロパティ(P)" (Properties), and "キャンセル" (Cancel). The "接続" button is highlighted with a red rectangular box.

以上でダイヤルアップネットワークのセットアップは完了です。

## Windows 98 へのセットアップ

### ●モデムのセットアップ手順

Windows 98へモデムをセットアップする手順について説明します。

- ①「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ②付属の「Windows 用ドライバ&マニュアル CD-ROM」をパソコンの CD-ROM ドライブにセットして下さい。
- ③「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



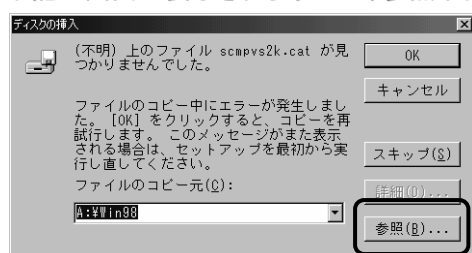
- ④「CD-ROMドライブ」を選択して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



⑤下記の画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックして下さい。



⑥下記の画面が表示されますので、参照ボタンをクリックして下さい。

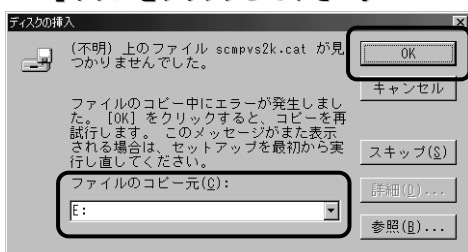


⑦「ドライブ」でCD-ROMドライブを選択して下さい。

ファイル名に「SCMpv2k.cat」が表示されている事を確認して「OK」ボタンをクリックして下さい。



⑧「ファイルのコピー元」にCD-ROMドライブのドライブ文字が表示されている事を確認して「OK」ボタンをクリックして下さい。



⑨下記の画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックして下さい。



以上でWindows 98へのセットアップは完了です。



## ●ダイヤルアップネットワークのセットアップ手順

Windows 98 でダイヤルアップネットワークをセットアップする手順について説明します。

Windows 98 でダイヤルアップ接続を行う場合、ダイヤルアップネットワークがインストールされている必要があります。(インターネット接続の場合 TCP/IP プロトコルも必要です。) インストールされていない場合は、Windows 98 のマニュアル等を参照してインストールを行ってください。

- ①「スタートメニュー」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」の順番にクリックして下さい。
- ②「新しい接続」をダブルクリックして下さい。



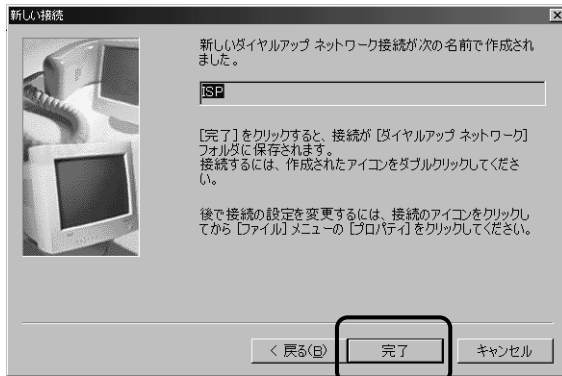
- ③「接続名」にISP名等、接続先が判別できる名称を入力して下さい。  
「モデムの選択」欄で「MICRO RESEARCH MR560E5」が選択されていることを確認して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



- ④アクセスポイント(接続先)の電話番号を入力して「次へ」ボタンをクリックして下さい。



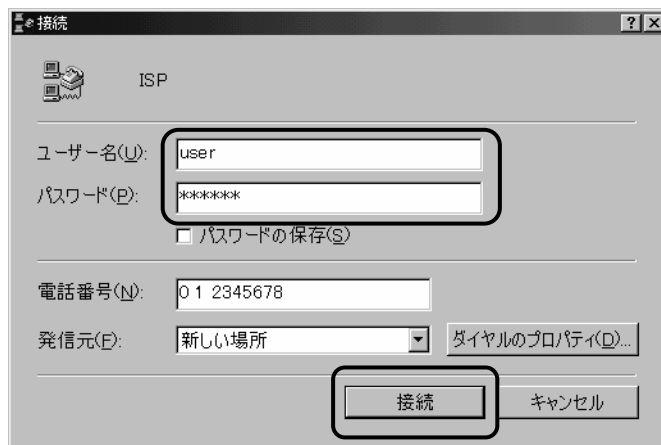
⑤下記の画面が表示されますので「完了」ボタンをクリックして下さい。



⑥「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウ内に作成したダイヤルアップネットワークアイコンが表示されますのでダブルクリックして下さい。



⑦下記の画面が表示されますので、「ユーザー名」、「パスワード」(接続先のアカウント情報)を入力して下さい。  
「接続」ボタンをクリックするとダイヤルアップが開始されます。



以上でダイヤルアップネットワークのセットアップは完了です。

## AT コマンドと S レジスタについて

AT コマンドのフォーマットは以下の通りです。

AT<コマンド><パラメータ><コマンド><パラメータ><.....>(CR)(LF)

- コマンドとパラメータは同一行に複数設定することが可能です。(ATを含め、最大64文字)  
例) ATQ0V1E0X4¥N3&K3+MS=V34,1,2400,28800,2400,33600
- AT互換機や端末の一部には「¥」キーのないものがあります。  
その場合は「\」キーが「¥」キーと同じ意味になります。
- コマンドの後にパラメータ設定がされない場合「0」として扱われます。  
また、一部コマンドで初期値が記述されていないものも、これに該当します。  
例) AT&W → AT&W0 として扱われます。
- モデム-端末間の速度(DTE)については、端末から送られてくる「AT」の2文字を検出し、自動認識します。

コマンド	内容
A/	直前に実行したコマンドを再実行します。 このコマンドの前には「AT」はつけません。 また、最後の<Enter>も入力する必要ありません。  例) ATDT117 <Enter> ...ダイヤルコマンドの実行 NO CARRIER ...何かキーを押し、回線切断 A/ ...ダイヤルコマンドが再実行される NO CARRIER ...何かキーを押し、回線切断
ATA	アンサーモードで回線接続を行います。
ATDxxx	ダイヤル動作を行います。 書式: ATDxxx (x=各パラメータや電話番号) P パルスダイヤルを行います。(ダイヤル回線) T トーンダイヤルを行います。(プッシュ回線) W 第2ダイヤルトーンを検出します。 @ 5秒間の無音状態を検出します。 検出できない場合は「NO ANSWER」を返します。 , S8レジスタ(初期値2秒)で設定された時間、ダイヤルを待ちます。 構内交換機、0発信等でダイヤルを待つ場合に使います。 0~9、*、# 相手の電話番号をダイヤルします。 ダイヤル番号を見やすくするためにスペース、「-」、「()」、「[]」等が使えます。 なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使えます。 ; ダイヤル後コマンドモードに戻ります。 ! 0.5秒間、回線をオンフック(回線断)します。 S=n AT&Znコマンドで登録した電話番号にダイヤルします。 L 最後にかけた番号にリダイヤルします。 ^ V.25コーリングトーンを出力します。  例1) ATDT03-1234-5678 電話番号03-2345-6789へトーンダイヤルを行います。 例2) ATDT03-9876-5432 電話番号03-9876-5432へパルスダイヤルを行います。 例3) ATDT0,3333-4444 0をダイヤルしてから2秒待った後、電話番号3333-4444へトーンダイヤルを行います。

コマンド	内容
ATE	DTE(端末側)から送られたコマンドのエコー(文字をそのまま送り返す)の有無を設定します。 書式:ATEn (n=0~1) E0 コマンドモード時、DTE から入力したコマンド文字を DTE に返しません。 E1 コマンドモード時、DTE から入力したコマンド文字を DTE に返します。(初期値)
ATH	回線の接続/切断を行います。 書式:ATHn (n=0~1) H0 回線を切断(オンフック)します。 H1 回線を接続(オフフック)します。
ATI	モデムの識別コードを表示します。 書式:ATI n (n=0~3) I0 最高速度を表示します。 I1 ROM のチェックサムコードを表示します。 I2 ROM のチェックを実行します。 I3 メーカー名、型番を表示します。
ATL	モニタースピーカーの音量を設定します。 書式:ATLn (n=0~3) L0 音量小。 L1 音量小。(初期値) L2 音量中。 L3 音量大。
ATM	モニタースピーカーの ON、OFF のタイミングを設定します。 書式:ATMn (n=0~3) M0 スピーカーを常に OFF にします。 M1 キャリアを検出するまで ON にします。(初期値) M2 スピーカーを常に ON にします。 M3 ダイアル終了からキャリア検出まで ON にします。
ATO	オンラインモード中(通信中)にエスケープコマンド(「+++」)によってコマンドモードになった際、再びオンラインモードに戻るときに使用します。 書式:ATOn (n=0~1) O0 オンラインモードに戻ります。 O1 トレーニングシーケンスを再実行(リトレーニング)して、オンラインモードに戻ります。
ATQ	リザルトコードを DTE(端末側)に返すか、返さないかのモードを設定します。 書式:ATQn (n=0~1) Q0 リザルトコードを DTE(端末側)に返します。(初期値) Q1 リザルトコードを DTE(端末側)に返しません。
ATSx?	S レジスタ x の内容を読み出します。 例) ATS8? S8 レジスタの値を読み出します。
ATSx=y	レジスタ x に数値 y を設定します。 書式:ATSx=y (x=設定を行う S レジスタの番号、y=設定する値(10 進数)) 例) ATS0=1 S0 レジスタに 1(10 進数)を設定します
ATV	AT コマンドのリザルトコードの形式を設定します。 書式:ATVn (n=0~1) V0 リザルトコードを数字表示に設定します。 V1 リザルトコードを文字表示に設定します。(初期値)

コマンド	内容
ATW	接続時のリザルトコードの拡張方法を設定します。 書式:ATWn (n=0~2) W0 接続時に DTE 速度のみを返します。(初期値) 例) CONNECT 115200 W1 接続時に DCE 速度、エラー訂正プロトコル、DTE 速度の順に返します。 (ATW0+MR=2;+DR=1;+ER=1 と同じです。) W2 接続時に DCE 速度(受信)のみを返します。
ATX	モデム接続時のリザルトコード拡張方法の設定、及び、ダイヤル時のトーン検出を設定します。 書式:ATXn (n=0~4) X0 リザルトコードの拡張を行いません。 X1 リザルトコードに接続時の速度(ホストとモデムとの通信速度)を付加します。 X2 X1に加えて、ダイヤル時にダイヤルトーンの検出を行います。 ダイヤルトーンが検出できない場合「NO DIALTONE」を表示します。 X3 X1に加えて、ビジートーン(話中音)の検出を行います。 ビジートーンを検出した場合「BUSY」を表示します。 X4 X2、X3をあわせて表示、検出を行います。(初期値)
ATZ	モデムを不揮発性メモリの保存内容で初期化します。(ソフトウェアリセット) 書式:ATZn (n=0~1) Z0 不揮発性メモリのプロファイル 0 の保存内容で初期化します。 Z1 不揮発性メモリのプロファイル 1 の保存内容で初期化します。 ※このコマンドは完了までに約 1 秒程度かかり、実行中に他コマンドは受け付けられません。 なお、コマンド列の中に本コマンドがあるときは、それ以降のコマンドは無視されます。 例) ATZX3 ... X3 コマンドは無視されます。
AT&C	CD 信号(キャリア検出信号、DCD)の動作を設定します。 書式:AT&Cn (n=0~1) &C0 CD 信号を常に ON にします。 &C1 CD 信号はキャリアが検出されると ON します。(初期値)
AT&D	DTR 信号(データ端末レディ、ER)が ON から OFF に変化した場合の動作を設定します。 書式:AT&Dn (n=0~3) &D0 DTR 信号は無視し、常に ON として扱います。 &D1 DTR 信号が OFF になると、コマンドモードになります。 &D2 DTR 信号が OFF になると、回線を切断しコマンドモードになります。(初期値) &D3 DTR 信号が OFF になると、初期化されます。(ATZ コマンド実行状態になります。)
AT&F	各種のパラメータを工場出荷の初期値に戻します。
AT&K	DTE(端末側)のフロー制御(RTS/CTS、XON/XOFF)を設定します。 書式:AT&Kn (n=0、3~5) &K0 フロー制御をしません。 &K3 RTS/CTS フロー制御(ハードウェアフロー制御)をします。(初期値) &K4 XON/XOFF フロー制御(ソフトウェアフロー制御)をします。 &K5 透過 XON/XOFF フロー制御をします。
AT&P	パルスダイヤルのダイヤル速度を設定します。 書式:AT&Pn (n=0~2) &P0 ダイヤルパルスを 10PPS にします。(初期値) &P1 ダイヤルパルスを 10PPS にします。 &P2 ダイヤルパルスを 20PPS にします。
AT&V	現在設定されているコマンドの一覧を表示します。

コマンド	内容
AT&W	<p>現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込みます。</p> <p>書式:AT&amp;Wn (n=0~1)</p> <p>&amp;W0 不揮発性メモリのプロファイル 0 に書き込みます。</p> <p>&amp;W1 不揮発性メモリのプロファイル 1 に書き込みます。</p>
AT&Y	<p>電源立ち上げ時に読み込むプロファイルを設定します。</p> <p>書式:AT&amp;Yn (n=0~1)</p> <p>&amp;Y0 プロファイル 0 を指定します。(初期値)</p> <p>&amp;Y1 プロファイル 1 を指定します。</p> <p>※本コマンドは AT&amp;F を実行しても工場出荷値に戻りません。</p>
AT&Zx=y	<p>ATDS=n コマンド(ATDを参照)でダイヤルする場合の、電話番号を設定します。(最大 4 箇所)</p> <p>書式:AT&amp;Zx=y (x=0~3、y=設定する電話番号)</p> <p>例) AT&amp;Z1=4444-5555 電話番号 4444-5555 を保存エリア 1 に設定します。</p>
AT%C	<p>データ圧縮の方法を設定します。</p> <p>書式:AT%Cn (n=0~3)</p> <p>%C0 データ圧縮をしません。</p> <p>%C1 MNP5 のデータ圧縮を行います。</p> <p>%C2 V.44/V.42bis のデータ圧縮を行います。</p> <p>%C3 V.44/V.42bis/MNP5 のデータ圧縮を行います(初期値)</p> <p>※V.44 は相手モデムが対応している場合のみ使用可能です。</p>
AT%E	<p>回線の状態を監視し、状態が変化した場合にトレーニングシーケンスの再実行(リトレーニング)、及び、回線速度の変更を行うか否かを設定します。</p> <p>書式:AT%En (n=0~2)</p> <p>%E0 リトレーニングを自動で再実行しません。</p> <p>%E1 リトレーニングを自動で再実行します。回線速度の変更は行いません。</p> <p>%E2 リトレーニングの自動再実行、及び、回線速度の変更を行います。(初期値)</p>
AT%N	<p>通信モード(エラー訂正プロトコルの動作)を設定します。</p> <p>書式:AT%Nn (n=0~5)</p> <p>¥N0 ノーマルモードで通信します。V.42、MNP 等は使用しません。</p> <p>¥N1 ダイレクトモードで通信します。V.42、MNP 等は使用しません。</p> <p>¥N2 V.42、MNP モードで接続します。 相手モデムが V.42、MNP でない場合は接続しません。</p> <p>¥N3 V.42、MNP モードで接続します。(初期値) 相手モデムが V.42、MNP でない場合は、ノーマルモードで接続します。</p> <p>¥N4 V.42 モードで接続できます。相手モデムが V.42 でない場合は、接続しません。</p> <p>¥N5 MNP モードで接続します。相手モデムが MNP でない場合は、接続しません。</p>
AT%V	<p>拡張リザルトコードを設定します。</p> <p>書式:AT%Vn (n=0~1)</p> <p>¥V0 拡張リザルトコードを使用しません。(初期値)</p> <p>¥V1 拡張リザルトコードを使用します。</p> <p>《 ¥V1 設定時の表示例 》</p> <pre> AT%V1 OK ATDTxx-xxxx-xxxx CONNECT 115200 / V34 / LAPM / V42B / 31200:TX / 33600:RX (*1) (*2) (*3) (*4) (*5) (*6) </pre> <p>*1: DTE 速度 115200bps で接続した。 *2: 変調方式 V.34 で接続された。</p> <p>*3: エラー訂正 V.42 で接続した。 *4: データ圧縮 V.42bis で接続した。</p> <p>*5: 送信速度 31200bps で接続された *6: 受信速度 33600bps で接続された。</p>

コマンド	内容
AT+DR	<p>接続時のリザルトコードに、データ圧縮モードを表示するか否かを設定します。(ATW0 設定時)</p> <p>書式:AT+DR=n (n=0~1)</p> <p>+DR=0 データ圧縮モードを表示しません。(初期値)</p> <p>+DR=1 データ圧縮モードを表示します。</p> <p>※本コマンドの後ろに続けて別のコマンドを設定する際は、本コマンドと次のコマンドの間に「;」(セミコロン)を入れて下さい。</p> <p>例) AT+DR=1;X3</p>
AT+ER	<p>接続時のリザルトコードに、エラー訂正モードを表示するか否かを設定します。(ATW0 設定時)</p> <p>書式:AT+ER=n (n=0~1)</p> <p>+ER=0 エラー訂正モードを表示しません。(初期値)</p> <p>+ER=1 エラー訂正モードを表示します。</p> <p>※本コマンドの後ろに続けて別のコマンドを設定する際は、本コマンドと次のコマンドの間に「;」(セミコロン)を入れて下さい。</p> <p>例) AT+ER=1;X3</p>
AT+MR	<p>接続時のリザルトコードに、変調方式、通信速度(DCE 速度)を表示するか否かを設定します。(ATW0 設定時)</p> <p>書式:AT+MR=n (n=0~2)</p> <p>+MR=0 変調方式、通信速度を表示しません。(初期値)</p> <p>+MR=1 変調方式、送信速度/受信速度を表示します。</p> <p>+MR=2 変調方式、受信速度を表示します。</p> <p>※本コマンドの後ろに続けて別のコマンドを設定する際は、本コマンドと次のコマンドの間に「;」(セミコロン)を入れて下さい。</p> <p>例) AT+MR=2;X3</p>

コマンド	内容																						
AT+MS	<p>相手モデムとの変調方式(通信規格)、手順、通信速度(DCE 速度)等を指定します。 書式: AT+MS=Carrier,AutoMode,MinTXrate,MaxTXrate,MinRXrate,MaxRXrate Carrier 変調方式を設定します。設定可能なパラメータは以下の通りです。</p> <table border="1" data-bbox="493 456 1158 869"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>変調方式(通信規格), 通信速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>V21</td> <td>V.21 300bps</td> </tr> <tr> <td>V22</td> <td>V.22 1200bps</td> </tr> <tr> <td>V22B</td> <td>V.22bis 1200, 2400bps</td> </tr> <tr> <td>V32</td> <td>V.32 4800, 9600bps</td> </tr> <tr> <td>V32B</td> <td>V.32bis 4800, 7200, 9600, 12000, 14400bps</td> </tr> <tr> <td>V34</td> <td>V.34 2400, 4800, 7200, 9600, 12000, 14400, 16800, 19200, 21600, 24000, 26400, 28800, 31200, 33600bps</td> </tr> <tr> <td>V90</td> <td>V.90 28000, 29333, 30667, 32000, 33333, 34000, 34667, 36000, 37333, 38667, 40000, 41333, 42667, 44000, 45333, 46667, 48000, 49333, 50667, 52000, 53333, 54667, 56000bps</td> </tr> </tbody> </table> <p>AutoMode 速度自動応答モード(V.8)を設定します。 設定可能なパラメータは以下の通りです。</p> <table border="1" data-bbox="493 945 1158 1077"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>速度自動応答モード 無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>速度自動応答モード 有効 (通常はこちらを設定して下さい。)</td> </tr> </tbody> </table> <p>MinTXrate 送信下限速度を設定します。 MaxTXrate 送信上限速度を設定します。 MinRXrate 受信下限速度を設定します。 MaxRXrate 受信上限速度を設定します。</p> <p>例 1) AT+MS=V34,1,2400,28800,2400,31200 →変調方式を V.34 に設定し、通信速度を下記の範囲に設定。 ・送信下限速度 2400bps ~ 送信上限速度 28800bps ・受信下限速度 2400bps ~ 受信上限速度 31200bps</p> <p>例 2) AT+MS=V90,1,21600,28800,36000,45333 →変調方式を V.90 に設定し、通信速度を下記の範囲に設定。 ・送信下限速度 21600bps ~ 送信上限速度 28800bps ・受信下限速度 36000bps ~ 受信上限速度 45333bps</p> <p>例 3) AT+MS=V32B,1,,,12000 →変調方式を V.32bis に設定し、受信上限速度を 12000bps に設定。</p> <p>例 4) AT+MS=V22B,0 →変調方式を V.22bis に設定し、自動モードを無効に設定。</p> <p>※1: 設定を行う際は、接続相手側のモデムと設定にあわせ、適切な値を設定するようにして下さい。 ※2: 本コマンドの後ろに続けて別のコマンドを設定する際は、本コマンドと次のコマンドの間に「;」(セミコロン)を入れて下さい。 例) AT+MS=V34,1,2400,28800,2400,31200;X3</p>	パラメータ	変調方式(通信規格), 通信速度	V21	V.21 300bps	V22	V.22 1200bps	V22B	V.22bis 1200, 2400bps	V32	V.32 4800, 9600bps	V32B	V.32bis 4800, 7200, 9600, 12000, 14400bps	V34	V.34 2400, 4800, 7200, 9600, 12000, 14400, 16800, 19200, 21600, 24000, 26400, 28800, 31200, 33600bps	V90	V.90 28000, 29333, 30667, 32000, 33333, 34000, 34667, 36000, 37333, 38667, 40000, 41333, 42667, 44000, 45333, 46667, 48000, 49333, 50667, 52000, 53333, 54667, 56000bps	パラメータ	内容	0	速度自動応答モード 無効	1	速度自動応答モード 有効 (通常はこちらを設定して下さい。)
パラメータ	変調方式(通信規格), 通信速度																						
V21	V.21 300bps																						
V22	V.22 1200bps																						
V22B	V.22bis 1200, 2400bps																						
V32	V.32 4800, 9600bps																						
V32B	V.32bis 4800, 7200, 9600, 12000, 14400bps																						
V34	V.34 2400, 4800, 7200, 9600, 12000, 14400, 16800, 19200, 21600, 24000, 26400, 28800, 31200, 33600bps																						
V90	V.90 28000, 29333, 30667, 32000, 33333, 34000, 34667, 36000, 37333, 38667, 40000, 41333, 42667, 44000, 45333, 46667, 48000, 49333, 50667, 52000, 53333, 54667, 56000bps																						
パラメータ	内容																						
0	速度自動応答モード 無効																						
1	速度自動応答モード 有効 (通常はこちらを設定して下さい。)																						
+++	<p>オンラインモードのとき、端末から前後 1 秒間の時間を空けて「+++」の コマンドが入力されると回線を切断することなく、コマンドモードに移ります。 「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されませんので、Enter キー等は入力しないで下さい。</p>																						



○印のついているSレジスタは、不揮発性メモリに保存することが可能です。

Sレジスタ	内容
S0	呼び出し音(RING)の何回目で自動着信するかを設定します。 S0=0 自動着信しません。(初期値) S0=n (n=1~255) n回目の呼び出しを受けると自動着信します。 ○
S1	呼び出し音の回数をカウントします。 呼び出し音を検出されるとS1レジスタの値が+1されます。 なお、呼び出し音が止まってから8秒たつと、S1レジスタは0になります。 S1=n (n=0~255) 初期値:S1=0 ※S0が0の場合は、S1は+1されません。
S2	エスケープコードに使うキャラクタコードを設定します。 S2=n (n=0~127) 初期値:S2=43 (キャラクタ「+」) ○
S3	復帰コードのキャラクタコードを設定します。0~127の値が設定できます。 S3=n (n=0~127) 初期値:S3=13 (16進数で0D)
S4	改行コードのキャラクタコードを設定します。 S4=n (n=0~127) 初期値:S4=10 (16進数で0A)
S5	バックスペースコードのキャラクタコードを設定します。コマンドを1文字訂正するに使われます。 このレジスタに表示可能なコード(33~126)を設定することは出来ません。 S5=n (n=0~32, 127, 33~126は設定不可) 初期値:S5=8 (16進数で0B)
S6	オフフックしてからダイヤルするまでの待ち時間を設定します。 ATXコマンドがダイヤルトーンを検出しない場合(X0, 1, 3)に有効です。 ダイヤルトーンを検出する場合(X2, 4)はS6レジスタの値は関係ありません。 単位は1秒です。 S6=n (n=4~10) 初期値:S6=4(4秒) ○
S7	ダイヤルしてから接続されるまでの、接続待ち時間を設定します。 この時間内に接続されないと「NO CARRIER」がパソコンに返されます。 単位は1秒です S7=n (n=30~118) 初期値:S7=50(50秒) ○
S8	ダイヤル時のポーズコマンド「,」の待ち時間を設定します。 単位は1秒です S8=n (n=2~255) 初期値:S8=2(2秒) ○
S9	相手モデムからのキャリアを検出する時間です。 接続時に、この時間以上連続してキャリアが検出されると、回線が接続されます。 単位は0.1秒です S9=n (n=1~255) 初期値:S9=6(0.6秒) ○
S10	回線が接続中に、この時間以上連続してキャリアが検出できない場合、キャリア断として回線が切断されます。 単位は0.1秒です S10=n (n=1~254) 初期値:S10=14(1.4秒) S10=255 キャリア断を無視します。 ○
S11	DTMF トーン(トーン発信時のトーンの長さ)を設定します。 単位は0.001秒です。 S11=n (n=65~255) 初期値:S11=85(0.085秒) ○
S12	エスケープコマンド(+++)の前後のガード時間を設定します。 エスケープコマンドの前後に、設定されたガード時間以上、データのない時間が必要です。 なお、+ と + の間はこの時間より短くなければなりません。 単位は1/50秒です。 S12=n (n=0~255) 初期値:S12=50(1秒) ○

Sレジスタ	内 容
S25	DTR(ER)信号が変化したことを検出するまでの遅延時間を設定します。 単位は 0.01 秒です。 S25=n (n=0~255) 初期値:S25=5(0.05 秒) <span style="float:right">○</span>
S30	データの送受信が行われない場合の回線切断タイマを設定します。 単位は 10 秒です。 S30=n (n=0~255) 初期値:S30=0(データの送受信が行われなくても回線切断しません。) <span style="float:right">○</span>

## リザルトコードについて

AT コマンドを実行した際の応答結果(リザルトコード)を記します。

リザルトコード(文字)		内 容
数字形式	文字形式	
0	OK	コマンドを実行した(正常実行時)
1	CONNECT	回線接続した(ATX0~X4 時)
24	DELAYED	リダイヤル制限中
2	RING	呼び出し信号を検出した
3	NO CARRIER	キャリアが検出できないか、キャリアが消滅した
4	ERROR	コマンドエラー、その他、動作不可のコマンドを実行した
5	CONNECT 1200	1200bps で接続した(ATX1~X4 時)
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンが検出できない(ATX2, X4 コマンド設定時)
7	BUSY	話中音が検出された
145	+MCR: V90	変調方式 ITU-T V.90 で接続された
142	+MCR: V34	変調方式 ITU-T V.34 で接続された
141	+MCR: V32B	変調方式 ITU-T V.32bis で接続された
140	+MCR: V32	変調方式 ITU-T V.32 で接続された
138	+MCR: V22B	変調方式 ITU-T V.22bis で接続された
137	+MCR: V22	変調方式 ITU-T V.22 で接続された
46	+MRR: 1200	キャリア速度 1200bps で接続された
47	+MRR: 2400	キャリア速度 2400bps で接続された
48	+MRR: 4800	キャリア速度 4800bps で接続された
49	+MRR: 7200	キャリア速度 7200bps で接続された
50	+MRR: 9600	キャリア速度 9600bps で接続された
51	+MRR: 12000	キャリア速度 12000bps で接続された
52	+MRR: 14400	キャリア速度 14400bps で接続された
53	+MRR: 16800	キャリア速度 16800bps で接続された
54	+MRR: 19200	キャリア速度 19200bps で接続された
55	+MRR: 21600	キャリア速度 21600bps で接続された
56	+MRR: 24000	キャリア速度 24000bps で接続された
57	+MRR: 26400	キャリア速度 26400bps で接続された
195	+MRR: 28000	キャリア速度 28000bps で接続された
58	+MRR: 28800	キャリア速度 28800bps で接続された
196	+MRR: 29333	キャリア速度 29333bps で接続された
197	+MRR: 30667	キャリア速度 30667bps で接続された

リザルトコード		内 容
数字形式	文字形式	
91	+MRR: 31200	キャリア速度 31200bps で接続された
150	+MRR: 32000	キャリア速度 32000bps で接続された
198	+MRR: 33333	キャリア速度 33333bps で接続された
84	+MRR: 33600	キャリア速度 33600bps で接続された
199	+MRR: 34667	キャリア速度 34667bps で接続された
152	+MRR: 36000	キャリア速度 36000bps で接続された
200	+MRR: 37333	キャリア速度 37333bps で接続された
201	+MRR: 38667	キャリア速度 38667bps で接続された
154	+MRR: 40000	キャリア速度 40000bps で接続された
202	+MRR: 41333	キャリア速度 41333bps で接続された
203	+MRR: 42667	キャリア速度 42667bps で接続された
156	+MRR: 44000	キャリア速度 44000bps で接続された
189	+MRR: 45333	キャリア速度 45333bps で接続された
190	+MRR: 46667	キャリア速度 46667bps で接続された
158	+MRR: 48000	キャリア速度 48000bps で接続された
206	+MRR: 49333	キャリア速度 49333bps で接続された
207	+MRR: 50667	キャリア速度 50667bps で接続された
160	+MRR: 52000	キャリア速度 52000bps で接続された
208	+MRR: 53333	キャリア速度 53333bps で接続された
209	+MRR: 54667	キャリア速度 54667bps で接続された
162	+MRR: 56000	キャリア速度 56000bps で接続された
70	+ER: NONE	エラー訂正無しで接続した
77	+ER: LAPM	エラー訂正 V.42 で接続した
80	+ER: ALT	エラー訂正 MNP4 で接続した
69	+DR: NONE	データ圧縮無しで接続した
67	+DR: V42B	データ圧縮 V.42bis で接続した
68	+DR: V44	データ圧縮 V.44 で接続した
66	+DR: ALT	データ圧縮 MNP5 で接続した
10	CONNECT 2400	2400bps で接続された
11	CONNECT 4800	4800bps で接続された
12	CONNECT 9600	9600bps で接続された
13	CONNECT 7200	7200bps で接続された
14	CONNECT 12000	12000bps で接続された

リザルトコード		内 容
数字形式	文字形式	
15	CONNECT 14400	14400bps で接続された
59	CONNECT 16800	16800bps で接続された
16	CONNECT 19200	19200bps で接続された
61	CONNECT 21600	21600bps で接続された
62	CONNECT 24000	24000bps で接続された
63	CONNECT 26400	26400bps で接続された
180	CONNECT 28000	28000bps で接続された
64	CONNECT 28800	28800bps で接続された
181	CONNECT 29333	29333bps で接続された
182	CONNECT 30667	30667bps で接続された
91	CONNECT 31200	31200bps で接続された
165	CONNECT 32000	32000bps で接続された
183	CONNECT 33333	33333bps で接続された
84	CONNECT 33600	33600bps で接続された
166	CONNECT 34000	34000bps で接続された
184	CONNECT 34667	34667bps で接続された
167	CONNECT 36000	36000bps で接続された
185	CONNECT 37333	37333bps で接続された
168	CONNECT 38000	38000bps で接続された
17	CONNECT 38400	38400bps で接続された
186	CONNECT 38667	57600bps で接続された
169	CONNECT 40000	40000bps で接続された
187	CONNECT 41333	41333bps で接続された
170	CONNECT 42000	42000bps で接続された
188	CONNECT 42667	42667bps で接続された
171	CONNECT 44000	44000bps で接続された
189	CONNECT 45333	45333bps で接続された
172	CONNECT 46000	46000bps で接続された
190	CONNECT 46667	46667bps で接続された
173	CONNECT 48000	48000bps で接続された
191	CONNECT 49333	49333bps で接続された
174	CONNECT 50000	50000bps で接続された
192	CONNECT 50667	50667bps で接続された

リザルトコート		内 容
数字形式	文字形式	
175	CONNECT 52000	52000bps で接続された
193	CONNECT 53333	53333bps で接続された
176	CONNECT 54000	54000bps で接続された
194	CONNECT 54667	54667bps で接続された
177	CONNECT 56000	56000bps で接続された
18	CONNECT 57600	57600bps で接続された
19	CONNECT 115200	115200bps で接続された
+F4	FCERROR	FAX コマンドエラー

## ハードウェア・DTE インタフェース仕様、データフォーマット

### ●ハードウェア仕様

#### ■ NCU仕様

項目名	仕様
収容回線数	1回線
適用回線	電話回線
NCU形式	AA
ダイヤル形式	ダイヤルパルス式(10/20pps)、プッシュ式(トーン式)
NCU制御コマンド	ATコマンド準拠
FAX制御コマンド	EIA-578 拡張 ATコマンド(Class1)
回線モニタ	モニタランプ、内蔵スピーカー

#### ■ データ通信仕様

項目名	仕様				
通信方式	全二重				
同期方式	調歩同期式(非同期式)				
通信速度(DCE)	<table border="1"> <tr> <td>受信</td> <td>56000/54667/53333/52000/50667/49333/48000/46667/45333/44000/42667/41333/40000/38667/37333/36000/34667/33600/33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps</td> </tr> <tr> <td>送信</td> <td>33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps</td> </tr> </table>	受信	56000/54667/53333/52000/50667/49333/48000/46667/45333/44000/42667/41333/40000/38667/37333/36000/34667/33600/33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps	送信	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
受信	56000/54667/53333/52000/50667/49333/48000/46667/45333/44000/42667/41333/40000/38667/37333/36000/34667/33600/33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps				
送信	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps				
端末速度(DTE)	各モード自動認識 115200/57600/38400/19200/9600/4800/2400/1200/300bps				
DTE インタフェース	RS-232C 準拠				
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21				
送信レベル	-10~-15dBm (工場出荷値は-15dBm 以下)				
受信レベル	-43dBm 以上				
エラー訂正機能	ITU-T V.42(LAPM)、MNP クラス 4				
データ圧縮機能	ITU-T V.44/V.42bis、MNP クラス 5				
動作モード	ORG/ANS				
フロー制御	RTS/CTS、XON/XOFF				

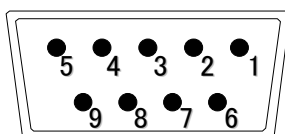
■FAX通信仕様

項目名	仕様
通信方式	半二重
同期方式	調歩同期式(非同期式)
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps (G3)
通信規格	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2

■一般仕様

項目名	仕様
電源	外部電源(専用 AC アダプター) 入力:AC100V 50/60Hz 出力:AC9V 1000mA
最大消費電力	最大 約 3W
環境条件	温度:0~40°C 湿度:25~85%(結露なきこと)
寸法	154(W)×111(D)×32(H)mm
重量	約 225g
認証番号	A07-0357001

●DTE インタフェース仕様



モデム側  
D-Sub 9 ピン(メス)

信号名	D-Sub 9ピン 端子番号	信号方向	内容
SD	3	端末→モデム	送信データ
RD	2	端末←モデム	受信データ
RTS	7	端末→モデム	送信要求
CTS	8	端末←モデム	送信可
SG	5	—	シグナルグランド
DCD(CD)	1	端末←モデム	キャリア検出
DTR(TR,ER)	4	端末←モデム	データ端末レディ
CI	9	端末←モデム	被呼要求

●データフォーマット(トータル 10ビット)

データビット	パリティ	ストップビット
8	なし	端末→モデム
7	なし	端末←モデム
7	偶数	端末→モデム
7	奇数	端末←モデム



## ユーザーサポート

---

- 本製品に関するお問い合わせは、マイクロ総合研究所 サポートセンターで受け付けております。
  - ・サポートセンター直通電話番号 :03-3458-9031
  - ・サポートセンター営業時間 :土日、祝日、年末年始を除く 10:00~12:00、13:00~17:00
  - ・サポートセンター直通 FAX 番号 :03-3458-9030 (到着順に回答致します。)
- お問い合わせ頂く際は、以下の事項について必ずご連絡下さい。
  - (1) ご使用の弊社製品名
  - (2) パソコンの型番
  - (3) ご使用の OS
  - (4) 具体的な症状(エラーメッセージ等、出来るだけ詳細に。)

## 製品の修理

---

- 本製品が故障してしまった場合は、販売店もしくは弊社修理センターへ修理をご依頼下さい。
  - ・必ず保証書を同梱して下さい。  
保証書の提示が無い場合、あるいは保証書の所定事項が未記入の場合、保障期間内であっても有償修理となります。
  - ・保障期間中は無償修理を行います。  
ただし、落雷や火災等、天災や事故による故障(破損)、及び誤った操作などによって発生した故障(破損)の場合、有償修理となります。
  - ・修理をご依頼頂く際は、下記事項に関する内容を修理品に同梱して下さい。
    - (1) 修理品の返送先(住所/氏名、担当者名等)
    - (2) 日中のご連絡先電話番号
    - (3) ご使用環境
    - (4) 故障状況
- 《 弊社修理センターへ直接修理品を送付する際の送付先 》
  - 〒140-0004 東京都品川区南品川 2-2-5 清水品川ビル
  - 株式会社マイクロ総合研究所 修理センター 宛
  - 電話番号:03-3458-9021 (お電話頂く際は、必ず修理センター宛の旨、お伝え下さい。)
  - ※送付される場合、発送時の費用はお客様ご負担、返送時の費用は弊社負担と致します。
- 本製品を分解または改造を行った場合、一切のサポート及び修理をお断りさせていただきます。



*DATA / FAX Modem*

**MR560E5**

ユーザーズマニュアル

— 第 1 版 —

\* Microsoft®、Windows®は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。  
\* その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

株式会社マイクロ総合研究所  
〒140-0004 東京都品川区南品川 2-2-5  
URL <http://www.MRL.co.jp/>  
第 1 版 2007 年 10 月 MRL-MDM-USR\_1